○お滝明神

本尊は、不動尊金仏で享保二十二年（享保は二十年間なので、元文二年のことをいうのか）二月、京都の大仏師、木村主計の作という。享保十八年（一七三三）当所、長百姓久兵工の子、久四郎二十五才に明神様の神夢があつた。それを聞いて参詣者が日に日に多くなつた。

そんなある年、大旱魃があり、村人は大いに困つた。久四郎はすぐ明神様に立願したところ、夢のおつげのように雨が降つた。その後、享保二十二年二月十一日明神の御神体を迎えに京にでむき、舟で海路を帰る途中、難風にあい、忽ち舟は難破し御神体は千尋の海底におちてみえなくなつた。ところがその年の五月になつて、男鹿の船越の沖で発見され、船越村の肝煎から久四郎のところに知らせがあつた。久四郎は喜んで早速人夫を連れ、海中をさがさせたところ光るものがあり、まさしくそれが御神体であつたという。（峯吉川）